

Go-Ahead

③

10 年研 第 3 回

学校教育相談について

アンケートの感想から

10 年経験者研修第 3 回は豊中市の教育相談チームに協力いただき、『学校教育相談についてー子ども理解と組織的な対応ー』というテーマで講義、演習を行いました。今回は小・中学校別で行いましたが、準備された事例は、共に性被害にあってしまった男子への対応でした。

事例を聞いた時に、「ありうるのか?」「小学校で?」というのが正直な感想です。それは自分の心の動揺の表れと言われて、納得しました。この研修でこういった事例について考える機会が得られ、とても良かったです。事例に対する支援シートの交流ができ、いろんな先生方の考えに触れられ、気づきを得られてとても良かったです。

今回の事例のポイントは、性被害であり表面化しにくい、かつ男子が被害者であること、学年を超え、中学校事例ではクラブ内で起こったこと、身体的な影響に気が付いた親からの報告で発覚したことなどです。

具体的な事例について、グループで話し合うことで、一人では考え付かないことにも気付くことができました。実際職場でも一人でなく、たくさんの目で見てみんなで考えることが大切だと、改めて感じました。

嫌なおもいをした生徒のことを常に中心において、起こったことに対して支援していかなければならないことを再確認できました。長期支援が必要だということ、学校全体でうごかなければいけないという所、その通りだと思って、より深く考えるきっかけがもてました。

多くの先生が、いろいろな考えに触れることができたことで、より深く考えることができたとおっしゃっています。経験や知恵を持ち寄り、協働して学びが深まったということでしょうか。正解がない複雑に絡み合う問題へのアプローチの王道です。このような視点があれば、外部機関との連携もスムーズにできそうです。

10 年経験者の方々と支援(指導)計画を意見交換しながらグループワークできたことで、自分の経験になかった意見や考えを知ることができ大変参考になりました。また、中長期的な視野を持つことが、その場しのぎではない組織的な指導、また、信頼される指導につながると感じました。

私も生徒指導上の問題解決ではその場しのぎが多かったように感じます。でも長期的に考えることこそ、「教育」であり、私たちの仕事ではないでしょうか。

イメージシートは今後活用したいと思いました。関係機関へのつなぎ方は大切だと思って、勉強になりました。

お互いの考えや議論の進行を可視化することは、意思決定や合意形成には欠かせないスキルです。ただ、関係機関への丸投げは禁物。「チーム学校」構想によって、SSW や SC の配置、関係機関との連携などが、盛んに言われていますが、主体を失ってしまったとき、被害者は置きざりにされてしまいます。

子どもの話を聞くとときに、いかに担任が話を聞ける体制を学年団や管理職が作れるかが非常に大事だと考えます。残念ながらそこが弱いことが多い。今日参加者で考えた内容を授業をしながらすることは不可能です。その辺も整理することが今の学校現場ではすごく必要だと思います。

本当にそうだと思います。だからこそ今回のような視点を持ってマネジメントしなければならないし、そんな視点が学校にないなら、みんなにその大切さを伝えてもらいたいと思います。最後に、

事例がデリケートな内容だったということもあり、慎重でかつ迅速な対応が必要でした。それだけに具体的に考えやすかったです。それとともに、少し疑問に感じたのは、職員が事案への対応で精神的、身体的にしんどくなった際の相談する先はどこでしょう? 専門機関でしょうか。気になりました。

先生自身の心が健康であることは本当に大切です。信頼できる人に相談したり、気分転換したり、セルフマネジメントも必要です。また、公立学校共済組合大阪支部が先生の心の健康のために「大阪メンタルヘルス総合センター」を開設しています。相談だけでなく研修や講師の派遣などもしてもらえます。各学校にもお知らせが届いているのではないかと思います。詳しくは、インターネットで検索してみてください。